

研究の概要

1 研究主題

にこにこ元気、太田郷っ子育成プランの創造 ～ 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

学校では、不登校やいじめ、学級崩壊、基本的生活習慣の乱れなどの深刻な問題が起きている。それらに共通して見られることは、児童の多くが夢や目標を持ちにくく、一方で、規範意識や自律心の低下、コミュニケーション不全に陥っているということである。この背景として、豊かな人間関係を築くための多様な体験の場や機会が、学校・家庭・地域社会から姿を消したことが考えられる。

このような社会を生き抜いていくためには、論理的な思考や感性を働かせながら問題解決の方法を探り、自分の考えを自分の言葉で表現する能力が必要である。また、自己実現や社会参加のための重要な道具として言語を活用できる能力を獲得することは不可欠なことである。

そこで、すべての教育活動で言語活動を充実させ、思考力・判断力・表現力を育成することは意義のあることだと考える。

(2) 本校の教育目標から

本校では、「21世紀をたくましく生きぬく確かな判断力と豊かな創造力を持ち、自ら学び自ら未来を切り拓く児童の育成」を教育目標に掲げ、その具体目標として次の3点を挙げている。

- 1 よく学び、明るく、思いやり豊かな心を持つ。
- 2 友だちのよいところを見つけ、共に伸びる。
- 3 自分のめあてをしっかり持ち、ねばり強くがんばる。

本研究主題にある「にこにこ元気、太田郷っ子」とは、一言で表すと「自己肯定感」に満ちた児童であり、その育成に取り組むことが上記の具体目標の実現に結びつき、ひいては本校教育目標に掲げる児童の育成につながると考える。

(3) 本校児童の実態から

本校の児童は全体的に学習への意欲が高く、全学年とも落ち着いた雰囲気です。授業に臨むことができる。また、家庭での三点固定運動（時に寝る・時に起きる・時に家庭学習を始める）への取組や学校での「チャイムに始まりチャイムに終わる指導」の継続した取組等により基本的な生活習慣は定着しているといえる。

全国標準学力検査（H20）の総合学力は、全国標準を上回っており学力分布も比較的小さいため、効率のよい学習指導ができる集団である。

熊本県学力調査（H19）の国語の結果を見てみると、3、4年生は「書く」及び「話す・聞く」の領域において、県平均は上回っているものの他の領域に比べると低い。また、全国学力・学習状況調査（H20）の国語の結果は、全領域とも全国平均をかなり上回っているが、「話す・聞く」のB問題（主として活用）は、他の領域に比べると低い結果であった。これらの実態を踏まえ、国語科を中心に各教科等で様々な言語活動を通して思考力・判断力・表現力の向上を図ることが本校児童には必要であると考えられる。

3 研究主題のとらえ方

(1) 「にこにこ元気、太田郷っ子」とは

**『にこにこ元気、太田郷っ子』
自分の思いを自分の言葉で表現することができ、「自己肯定感」に満ちた児童**

(2) 育成プランとは

すべての教育活動を通して言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力の育成を目指すための方策である。

学校全体における取組

- ア 言語力の向上は、すべての教育活動を通して行われるものであること、そして、生きる力、特に思考力・判断力・表現力を育成するために言語力が必要であることを共通理解する。
- イ 学校の教育活動全体で「話す・聞く」「書く」「読む」の言語活動を充実する。
- ウ 「書く」という言語活動を各教科等に位置付け、具体的に実践する。
- エ 言語環境を整えるとともに、読書活動を推進する。

授業における取組

- ア 言語力の育成について意識し、各教科等の単元や授業のねらいを明確にする。
- イ 児童の思考が深まる発問を工夫する。
- ウ 様々なテキストを活用し、知識や経験と関連付けて評価しながら読む活動を取り入れる。
- エ 目的や場面、条件に応じて自分の考えを書く活動を取り入れる。
- オ 異なった意見を出し合わせて問題を解決するような対話や討論を取り入れる。
- カ 自分の考えとその根拠を明確にし、まとまった発言となるように最後まで発表させる。
- キ 児童一人の発言を他の児童にしっかり受け止めさせ、相互の交流を図る。

(3) 「言語活動の充実」とは

「言語活動の充実」は「言葉の力を育てる活動の充実」と言い換えることができる。新学習指導要領では、「言語活動の充実」を各教科等で展開するとしている。「言語活動」というと、一般には「国語科で行うべきもの」と考えがちである。しかし、低学年においては、「生活科」は地域の人と関わりながら「言葉の力」を伸ばす絶好の機会となる。中学年以降の「理科」や「社会」においても資料やデータを読み取り仮説を立てながら検証をしていくことで、「言葉の力」を育成することができる。

つまり、国語科の学びが「言葉を通じた言葉の力の育成」であるのに対し、各教科等の学びは「体験を通じた言葉の力の育成」であり、その両者が重要である。

4 研究の内容

(1) 研究の仮説

各教科等において、論理的に思考し、表現する言語活動の充実を図るならば、児童は豊かな言語力を身に付け、自己肯定感を高めることができるであろう。

(2) 研究の視点

研究の仮説に迫るために、3つの部会及び部会テーマを設定し、研究を進める。

5 研究の構想

【心ばかばか部会】

(部会テーマ)「人権意識を高め、豊かな人間性や社会性をはぐくむための工夫」

- 1 人権意識を高め、自ら未来を切り拓く生き方の学び合い
 - (1) 人の痛みがわかり、いじめや差別を許さない仲間づくり
 - (2) 自分と他者との関わり合いを深める体験活動や集会活動
- 2 自他を大切に、相手の立場に立てる心づくり
 - (1) 人権意識を高める人権学習総合単元計画「人権学習総合プラン」づくり
 - (2) 自己存在感を高め、互いを認め協力し合う態度を培う道徳の授業づくり
- 3 支持的風土に満ちた学級づくりと温かい人間関係づくり
 - (1) 思いを伝え合う表現活動と表現方法の習得
 - (2) 児童のよさを引き出す評価

【授業いきいき部会】

(部会テーマ)「思考力・判断力・表現力の向上を図り、主体的に学ぶ授業づくりの工夫」

- 1 主体的に学ぶ授業づくり
 - (1) 主体的な学習を支援する授業の展開
 - (2) 「わかる授業」の展開
- 2 言語力を高める授業づくり
 - (1) 自分の言葉で論理的に考えたり、表現したりする力を育む授業づくり
 - (2) 論理的思考力、表現力を高める「書く」活動の位置付け
- 3 授業改善のための授業研究会の工夫
 - (1) 授業改善のための観点の明確化

【学校すきすき部会】

(部会テーマ)「『にこにこ元気、太田郷』の土壌を育む特色ある学校づくりの工夫」

- 1 言語活動の充実を図る学習環境づくり
 - (1) 思考力や表現力を高める学校全体の取組
 - (2) 日常生活における「生きた言語活動」への取組
- 2 健やかな成長を育む家庭との連携
 - (1) 三点固定運動の推進
 - (2) 読書活動の推進
- 3 地域の教育力を生かした開かれた学校づくり
 - (1) 望ましい育ちをはぐくむ六校園の取組
 - (2) 様々な交流活動によるふれあいや体験を通した豊かな学び

学校教育目標
21世紀をたくましく生きぬく確かな判断力と豊かな創造力を
持ち、自ら学び自ら未来を切り拓く児童の育成

研究主題
にこにこ元気、太田郷っ子育成プランの創造
～ 思考力・判断力・表現力を育成する言語活動の充実～

めざす児童像（にこにこ元気、太田郷っ子）
自分の思いを自分の言葉で表現することができ、
「自己肯定感」に満ちた児童

